

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-291336

(43)公開日 平成7年(1995)11月7日

(51)Int.Cl.⁶

B 65 D 55/02
43/04
85/575

識別記号

府内整理番号

F I

技術表示箇所

0330-3E

B 65 D 85/ 00

3 1 1 A

審査請求 未請求 請求項の数12 OL (全 12 頁)

(21)出願番号 特願平6-267435

(22)出願日 平成6年(1994)10月31日

(31)優先権主張番号 08/232370

(32)優先日 1994年4月25日

(33)優先権主張国 米国(US)

(71)出願人 394025603

エムパック インコーポレイテッド
アメリカ合衆国、ミネソタ州 55317 シ
ヤンハッセン レイク ドライブ 950

(72)発明者 ポイド ウィットマン

アメリカ合衆国、コロラド州 80918 コ
ロラドスプリングス、ノースリッジ ドラ
イブ 2707

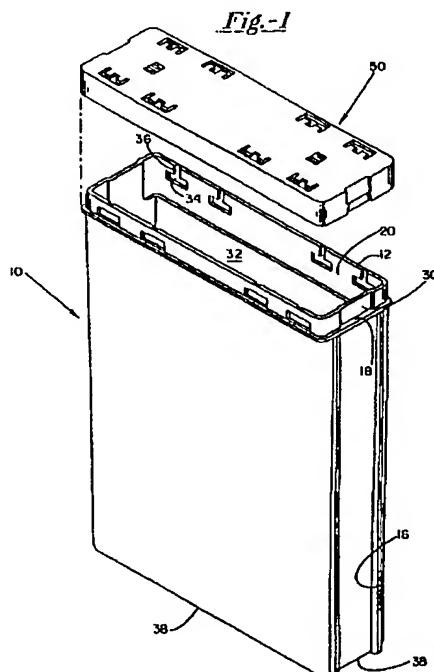
(74)代理人 弁理士 千葉 剛宏 (外1名)

(54)【発明の名称】 安全容器とその解錠装置

(57)【要約】

【目的】 盗難による損失を低減するため、ビデオゲーム等の末端販売で使用する比較的安価で再使用可能かつ吊り下げ可能な硬質透明容器であって、既に使用中の盗難防止電子警報装置と併用できる施錠機能を備えた安全容器を提供すること。

【構成】 箱10と施錠カバー50からなる安全容器。箱はその開口に近い側壁に多数のスロット34を有し、施錠カバーは箱のスロットに係合する突起58を備え、箱に施錠カバーを被せて押し付けると突起の先端がスロットと噛み合って施錠カバーが箱にロックされる。箱にロックされた施錠カバーを箱から取り外すには解錠装置99を用いる。解錠装置は多数のキー104を有し、このキーを施錠カバーに設けられた鍵穴56に挿入することにより突起の先端を移動させて突起とスロットとの結合状態を解除する。解錠装置はそれ自体を施錠カバーに押し付けてクランプするクランプ部材136を備える。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】ビデオゲーム等の物品を安全に収納するため、箱と、前記箱に係合すべく設計された施錠カバーからなる安全容器であって、

前記箱は開口と、開口を形成するリップと、前記リップに設けられた複数の係合用スロットと、底部とを備え、前記施錠カバーは基部と、前記基部から突き出て前記箱の係合用スロットに係合する複数の施錠突起と、解錠装置のキーの挿入を可能にする鍵穴と、前記基部の周囲から前記施錠突起と平行に延び、施錠カバーと箱とが係合した際に前記係合用スロットを覆うスカートとを備える、

ことを特徴とする安全容器。

【請求項2】請求項1記載の容器において、前記箱が更に、前記施錠突起に各々一様な力が加えられるのを確実にするための案内手段を前記リップ上に備えることを特徴とする安全容器。

【請求項3】請求項1記載の容器において、前記箱が更に、前記解錠装置のキーを整列させて保持するための案内手段を前記リップ上に備えることを特徴とする安全容器。

【請求項4】請求項1記載の容器において、前記施錠カバーが更に、該カバーから延びる複数のタブ手段を備え、これにより前記箱と施錠カバーとが係合した際に容器内に挿入体を保持し、前記挿入体は、容器外に設けられた盗難防止警報装置と相互作用を行うことを特徴とする安全容器。

【請求項5】請求項1記載の容器において、前記施錠カバーが更に、前記解錠装置のクランプ手段と噛み合う肩を与える切込みを前記スカートの両側端部に備えることを特徴とする安全容器。

【請求項6】請求項1記載の容器において、前記箱が更に、その底部に孔を備えることを特徴とする安全容器。

【請求項7】請求項6記載の容器において、前記箱が更に、前記孔を介して箱に取り付けられた容器吊下手段を備えることを特徴とする安全容器。

【請求項8】請求項7記載の容器において、前記吊下手段はベースと湾曲部材からなる鉤と弾性指とを備え、前記弾性指はベースを挟んで湾曲部材とは反対方向に延び、円弧状の側部とその外方に延びる円弧状の爪を備え、縦割円柱状に離間対向してその中間に中空部分を形成し、前記弾性指を箱の底部の孔に嵌め合わせて係止した際に、前記爪により孔から鉤を取り外しできないようにしたことを特徴とする安全容器。

【請求項9】請求項1記載の安全容器における箱から施錠カバーを取り外すための解錠装置であって、

キーベースと、

キーベースを容器の施錠カバーに着脱するクランプ手段と、

キーベースから突き出て施錠カバーの鍵穴の夫々に中心

2

を合わせて差し込まれ、施錠カバーの施錠突起の先端を移動させて、箱の係合用スロットと施錠突起との結合関係を解除する複数のキーと、
を備えることを特徴とする解錠装置。

【請求項10】請求項9記載の装置において、前記キーが、その両端に前記キーと同方向に立ち上がる一対の台状側部を備え、各台状側部はキーベースの横幅方向に対して直角に開けられたピン穴を有し、各台状側部はその内部に前記各クランプ手段を前記ピン穴を介して回動可能に保持し、両台状側部間の内法寸法は前記施錠カバーの横幅に概略等しいことを特徴とする解錠装置。

【請求項11】請求項10記載の装置において、前記クランプ手段が、
クランプ把手と、

前記箱から施錠カバーを取り外す際に該施錠カバーを保持するクランプフランジと、
クランプ手段を回動させるためのピン穴と、
前記ピン穴に前記台状側部のピン穴と中心軸を合わせて差し込まれるピンと、
を備えることを特徴とする解錠装置。

【請求項12】請求項11記載の装置において、前記クランプ手段が更にスプリングを保持する支柱を備え、前記支柱はクランプ手段の側部からクランプフランジとは反対側へ垂直に延び、前記スプリングは前記支柱よりより僅かに大きい内径を有し、その内部へ前記支柱が部分的に挿入されて該スプリングを適切な位置に保持することを特徴とする解錠装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

30 【産業上の利用分野】本発明は、ビデオゲームのような物品を盗難から保護する安全容器とその解錠装置に関する。

【0002】

【従来の技術】多年に渡り、商人は盗難により多大な損失を被ってきた。これらの損失を低減するために、盗難防止用の各種装置、方法が試みられてきた。ビデオゲーム、カセット等を取り扱う商人は、小さくて比較的高価な商品を盗難から保護する新規で安全な容器の必要性を常に感じている。

40 【0003】これまでの盗難防止容器はヒンジ蓋および鍵からなるものであったが、簡単な鍵のため、犯人は容易に開けてしまう。種々の形態の磁気ストリップも容器に応用されてきた。商人は現在では色々な盗難防止容器を所有してはいるが、隙あらばと狙っている頭の良い犯人が安全容器から商品を取り出して持ち去るのを防止するためには、さらに進歩した施錠手段への要求が絶えない。

【0004】従来の盗難防止容器は、ペーパークリップ、クレジットカード、剃刀の刃、歯、磁石、その他の小さな隠匿可能な物品により破られてきた。磁気ストリ

ップは盗難防止手段としては容易に回避されてしまう。すなわち、ストリップを取り外すか損傷を与える、感知フィールドを迂回する、または感知ストリップを消磁する等の手段によって、感知されることなく製品が容器から取り出されてしまう。

【0005】また、磁気ストリップは、販売時に消磁されるが取り外して再使用されることはないので、コスト効果が良くない。

【0006】現在の盗難防止容器のもう一つの欠点は、現在使用中の鍵が、施錠装置を容器から取り外す際の助けにならない点である。

【0007】本発明は、比較的安価で再使用可能な硬質透明容器であって、商人が現に使用中の盗難防止電子警報装置と併せ用いする施錠手段を備えた容器を提供することにより、これらの欠点を克服しようとするものである。それはより進歩した精密な施錠手段を備え、正しい解錠装置以外では容易には破れない。また容器が施錠手段から取り外されている間も、解錠装置によりその施錠手段を所定の場所に保持することができる。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】本発明の主たる目的は、改良された再使用可能な盗難防止安全容器を提供することにある。

【0009】本発明の他の目的は、盗難防止の程度を低下させることなく、美しい配列で陳列しまたは吊り下げることができる、再使用可能で施錠可能な安全容器を提供することにある。

【0010】本発明の他の目的は、正しい解錠装置を使用しない限り開けられない施錠可能な容器を提供することにある。

【0011】本発明のなお更なる目的は、再使用可能で比較的安価な施錠可能な安全容器であって、小売業者の現在の盗難防止電子警報装置と併用可能な安全容器を提供することにある。

【0012】本発明の更なる目的は、施錠カバーを箱から取り外している間も、施錠カバーを保持可能な解錠装置を提供することにある。

【0013】本発明のなお更なる目的は、使用者が簡単、迅速かつ便利に使用できる進歩した施錠手段を備えた安全容器およびその解錠装置を提供することにある。

【0014】本発明の他の目的は、各種寸法のビデオゲームをきっちりと収納できるよう調整可能かつ施錠可能な安全容器を提供することにある。

【0015】

【課題を解決するための手段】前記した目的および利点を達成するため、本発明に係る安全容器は、箱と、この箱に係合すべく設計された施錠カバーからなり、箱は開口と、開口を形成するリップと、リップに設けられた複数の係合用スロットと、底部とを備え、施錠カバーは基部と、基部から突き出て前記箱の係合用スロットに係合

する複数の施錠突起と、解錠装置のキーの挿入を可能にする鍵穴と、基部の周囲から施錠突起と実質的に平行に延び、施錠カバーと箱とが係合した際に係合用スロットを覆うスカートとを備えることを特徴とする。

【0016】また、上記の安全容器は、前記箱が更に、前記施錠突起に各々一樣な力が加えられるのを確実にするための案内手段を前記リップ上に備えることを特徴とする。

【0017】また、上記の安全容器は、前記箱が更に、前記解錠装置のキーを整列させて保持するための案内手段を前記リップ上に備えることを特徴とする。

【0018】また、上記の安全容器は、前記施錠カバーが更に、該カバーから延びる複数のタブ手段を備え、これにより前記箱と施錠カバーとが係合した際に容器内に挿入体を保持し、前記挿入体は、容器外に設けられた盗難防止警報装置と相互作用を行うことを特徴とする。

【0019】また、上記の安全容器は、前記施錠カバーが更に、前記解錠装置のクランプ手段と噛み合う肩を与える切込みを前記スカートの両側端部に備えることを特徴とする。

【0020】また、上記の安全容器は、前記箱が更に、その底部に孔を備えることを特徴とする。

【0021】また、上記の安全容器は、前記箱が更に、前記孔を介して箱に取り付けられた容器吊下手段を備えることを特徴とする。

【0022】また、上記の安全容器は、前記吊下手段はベースと湾曲部材からなる鉤と弾性指とを備え、前記弾性指はベースを挟んで湾曲部材とは反対方向に延び、円弧状の側部とその外方に延びる円弧状の爪を備え、縦割円柱状に離間対向してその中に中空部分を形成し、前記弾性指を箱の底部の孔に嵌め合わせて係止した際に、前記爪により孔から鉤を取り外しできないようにしたことを特徴とする。

【0023】さらに、前記した目的および利点を達成するため、本発明に係る安全容器の箱から施錠カバーを取り外すための解錠装置は、キーベースと、キーベースを容器の施錠カバーに着脱するクランプ手段と、キーベースから突き出て施錠カバーの鍵穴の夫々に中心を合わせて差し込まれ、施錠カバーの施錠突起の先端を移動させて、箱の係合用スロットと施錠突起との結合関係を解除する複数のキーとを備えることを特徴とする。

【0024】また、上記の解錠装置は、前記キーと同方向に立ち上がる一对の台状側部を備え、各台状側部はキーベースの横幅方向に対して直角に開けられたピン穴を有し、各台状側部はその内部に前記各クランプ手段を前記ピン穴を介して回動可能に保持し、両台状側部間の内法寸法は前記施錠カバーの横幅に概略等しいことを特徴とする。

【0025】また、上記の解錠装置は、前記クランプ手段が、クランプ把手と、前記箱から施錠カバーを取り外

す際に該施錠カバーを保持するクランプフランジと、クランプ手段を回動させるためのピン穴と、前記ピン穴に前記台状側部のピン穴と中心軸を合わせて差し込まれるピンとを備えることを特徴とする。

【0026】また、上記の解錠装置は、前記クランプ手段が更にスプリングを保持する支柱を備え、前記支柱はクランプ手段の側部からクランプフランジとは反対側へ垂直に延び、前記スプリングは前記支柱よりより僅かに大きい内径を有し、その内部へ前記支柱が部分的に挿入されて該スプリングを適切な位置に保持することを特徴とする。

【0027】

【作用】本発明に係る安全容器の使用に際しては、ビデオゲーム等を開口から箱の中に入れ、その後箱の開口に施錠カバーを被せて押し付ける。すると、施錠カバーの複数の施錠突起が箱のリップ上の係合用スロットと結合し、施錠カバーが箱にロックされる。

【0028】施錠カバーの内側には、小売店舗の電子盗難防止警報装置と相互作用する挿入体を保持するためのタブがあり、店舗から安全容器を持ち出すことを更に阻止する。

【0029】この安全容器の使用者は、解錠装置のキーベースと容器の施錠カバーの位置を合わせて結合させ、この2つを解錠装置のクランプ手段を用いて互いに押し付けることにより、単純かつ効率的に施錠カバーを箱から取り外すことができる。解錠装置のキーは施錠カバーの施錠突起の先端を移動させて箱の係合用スロットから離脱させ、施錠カバーを箱から取り外すことを可能にする。

【0030】キーを施錠カバーに向かって押し付けると、解錠装置のクランプ手段は自動的に、キーを施錠カバーに密着させてクランプする位置へ回動する。その後、クランプ手段を手で動かしてクランプ状態を解除すれば、キーを施錠カバーから取り外すことが可能になる。

【0031】種々の形状の鉤(フック)を箱の底部に嵌め込むことができ、このフックにより、容器を展示棒から吊り下げて美しく展示することができる。

【0032】本発明の前記した特徴および利点は、添付図面および特許請求の範囲と併せて以下の好適な態様の詳細な説明を概観することから、当業者に容易に明らかとなろう。

【0033】

【実施例】図1には、矩形の箱10および施錠カバー50を示す。矩形の箱10は、ビデオゲーム等を入れる開口32を有する。開口32はリップ12と、施錠カバー50と係合する鉤18とを有する(図1および図2を参照)。箱10の両端の長手方向に沿ってリブ16が延在し、支持および剛性を与える(図1および図4を参照)。鉤18に垂直なリップ12の端の、リップの外表

面21の凹部に第1の案内溝30が設けられている。これは施錠カバー50を位置決めして案内し、施錠突起58の各々に一様な力が加えられることを確実にする(図4および図7を参照)。

【0034】リップ12の側壁を貫通して鉤18に平行に、複数の係合用スロット34が形成されている(図3、図4および図5を参照)。これらのスロット34は、施錠カバー50上の突起58を受け入れてこれと係合する(図16を参照)。リップ12の内表面20の凹部には複数の第2の案内溝36が設けられている。案内溝36は各スロット34の中央上部からリップ12の内表面20の上縁まで垂直に延びている(図1、図3、図4および図5を参照)。第2の案内溝36は、キー104を正しい位置に合わせて保持するように作用する。

【0035】箱の底38は、その中心に孔22と、該中心から対称的に位置する複数の長孔24とを備える(図1および図2を参照)。孔22には鉤160(図30～図34を参照)を嵌め込むことができる。長孔24は、箱10に入れた対象物を取り外すための第2の手段を与える。第1の手段は箱を揺すって重力を与えることであり、第2の手段は長孔24から物体を突っ込み、この物体を介してビデオゲームに力を加えることである。

【0036】この実施例では、箱10はポリカーボネート製である。勿論、この発明から逸脱することなく、他の適当な材料を使用することができる。

【0037】図30および図31に示す鉤160は、同心的基部166と、基部166の中心から垂直に延びる湾曲部材174とを備える。基部166の中心から湾曲部材174と反対方向に、側面が弧状をなす複数の弾性指168が垂直に延びる。本実施例では、2つの弾性指168はテーパのついた背部176を有して半円形をなし、互いに反対側に枝分かれして、その中間にテーパのついた隙間172が形成されるように並んでいる。2つの弾性指168が作る直径は、箱の底の孔22より僅かに小さい。

【0038】テーパのついた隙間172は、基部166および湾曲部材174内へ切れ込んでおり、これによって弾性指168に更に柔らかさと弾力性が与えられる。弾性指168の外側の弧状表面の端から垂直外方に弧状の爪170がされている。弾性指168を箱の底の孔22と面一に係合させるとときは、弾性指168は内方に曲がり、爪170が孔22を通って押し込まれる。爪170が箱の底の孔22を完全に通り抜けると、曲げられていた弾性指168は元の位置に戻る。爪170は箱の底38の内側と係合し、鉤160が外れないように所定の場所に保持する。

【0039】基部166の中心から延びる湾曲部材174は、異なる寸法および形状のものであってもよい。図32、図33および図34には、異なる寸法および形状50を有する湾曲部材174の他の好適な態様を示す。

【0040】図9に示す施錠カバー50は、複数の施錠突起58を有する。突起58は施錠カバー50から垂直に延び、固定された先端を有する（図11、図12および図13を参照）。施錠カバー50の周囲から垂直に立ち上がるスカート86の内表面78は、箱側のリップ12の外表面21と摺動的に係合する（図12および図16を参照）。

【0041】施錠カバー50のスカート86の両端には切欠52が形成されており、切欠52にはクランプ部材136が受容される（図10、図14、図15、図27および図28を参照）。施錠カバー50のスカート86の両端の内側には肩54が形成されており（図15を参照）、肩54は、施錠カバー50を正しい位置に合わせて保持する第1の案内溝30に沿って摺動する。

【0042】施錠突起58の縦方向中心線の上方に、施錠カバー50を貫通する正確な鍵穴56が設けられている（図9、図11および図16を参照）。施錠カバー50はまた、複数のエジェクタピンボス80を有する。エジェクタピンボス80は、施錠カバー50の成形過程において支持を与えると共に、箱側のリップ12と施錠カバー50の位置を合わせる作用を営む（図15、図16および図29を参照）。

【0043】施錠カバー50の内表面90には、外方に垂直に延びる2つのタブ84が配設される。タブ84は、店舗の盗難防止電子警報装置と相互作用する挿入体を保持する（図10および図15を参照）。

【0044】各タブ84は、寸法調節用固定具150（図35～図37を参照）を受け入れて保持するよう設計されたスロット85を有する。スロット85は固定具150の厚みとほぼ等しい幅を有し、固定具150を所定の位置へ堅固に押圧することを可能にする。固定具150は、タブ84と係合した際に種々の寸法のビデオゲーム等を箱10内にきっちりと収容できるように、種々の高さに作成することができる。

【0045】施錠カバー50のスカート86の下端92は、施錠カバー50が箱側のリップ12に押しつけられる際に、箱側の鋤18に係合する（図16を参照）。本実施例では、施錠カバー50はポリカーボネート製である。勿論、この発明から逸脱することなく、他の適切な材料を使用することができる。

【0046】図17に示す解錠装置99は、キーベース100、キー挿入板102およびクランプ部材136を有する。キー挿入板102はキーベース100に対して複数の平頭ねじ120により固定され（図17および図29を参照）、平頭ねじ120は複数のキー挿入板102の孔108とキーベース100の孔110を貫いてセルフタップし、キー挿入板102とキーベース100を面一に整列させる（図17、図20および図21を参照）。

【0047】キーベース100の底はリブ112を備

え、リブ112はキーベース100の底の内部側壁123へ角度をもって延び、剛性および支持を与えている（図18および図19を参照）。キーベース100はその長手方向の両端に、キーベース100から垂直に立ち上がる台状側部121を備え、その内側122の対向距離は施錠カバー50のスカート86の長手方向の差し渡し寸法より僅かに大きい。

【0048】キー挿入板102は複数のキー104を備え、各キー104は施錠カバー50の各鍵穴56に対応する。本実施例では、キー104は傾斜角度を有する。この傾斜角度はキー104を施錠カバー50の鍵穴56へ押し込む際に、キー104と施錠カバー50の突起58との摩擦の低減に寄与する。また本実施例では、キー挿入板102はアルミニウム製であるが、勿論、この発明から逸脱することなく、他の適切な材料を使用することができる（図21、図22、図23および図29を参照）。

【0049】キーベース100の台状側部121は、その内側122上にスロット114を有する。このスロット114は、キーベース100の台状側部121内のクランプ部材136の回転を許容する。キーベース100の側端部125の外側にはスロット118が設けられている。スロット118は、クランプ部材136の把手138が、キーベース100の台状側部121を介して回転することを許容する。

【0050】キーベース100の穴116は、キーベース100の台状側部121を貫通してスロット118および114に垂直に開けられ、クランプ部材136の回転ピン134を受け入れる（図17、図18および図19を参照）。

【0051】クランプ部材136は、キーベース100の穴116と整列する穴128を有し、回転ピン134が両方の穴116、128を貫通して配置されるのを可能とする。クランプ部材136は、クランプフランジ126を備える。クランプフランジ126はクランプ部材136から延び、キーベース100を施錠カバー50にに対して正しく配置したときに、施錠カバー50の切欠52と噛み合う（図24、図27および図28を参照）。

【0052】クランプ部材136のクランプフランジ126とは反対側には、スプリング支柱132がクランプ部材136の側部から垂直に延びている（図24および図25を参照）。スプリング支柱132の外径よりも僅かに大きい内径を有するスプリング130が、スプリング支柱132を部分的に内包しつつ配置される（図17、図27および図28を参照）。

【0053】キーベース100が施錠カバー50に対して正しく配置され押し付けられると、スプリング130はクランプ部材136に対して力を及ぼし、クランプ部材136を自動的に回転させ、クランプフランジ126が施錠カバー50の切欠52に噛み込む。

【0054】クランプ部材136の把手138に対して施錠カバー50と反対方向(図27の矢印の方向)の力を及ぼせば、スプリング130が圧縮され、クランプ部材136が回転して施錠カバー50から離れ、クランプフランジ126が施錠カバー50の切欠52から解放される(図27および図28を参照)。

【0055】本実施例では、クランプ部材136はレクソン(Lexon)-ガラス充填物(Lexonはプラスティックの一種についての米国登録商標)製であるが、勿論、この発明から逸脱することなく他の適切な材料を使用することができる。

【0056】以下に、本発明の作用を説明する。

【0057】オペレータは、ビデオゲームを箱10の開口32から中に入れる。しかし後、施錠カバー50の肩54を箱10の第1の案内溝30に合わせる。肩54と案内溝30とが合ったならば、施錠カバー50の外表面88に垂直に力を加え、施錠カバー50のスカート86の縁92が箱10の鍔18に突き当たるまで押し込む。すると施錠カバー50の突起58の先端が箱10の係合用スロット34へ噛み込み、箱10と施錠カバー50とがロックされる(図16を参照)。

【0058】施錠カバー50を箱10から取り外すには、キーベース100を施錠カバー50の上に載せ、クランプフランジ126と施錠カバー50の切欠52とを位置合わせし、キーベース100を箱10側に押し付ける。すると、複数のキー104が複数の鍵穴56を通って進入し、施錠カバー50の突起58をスロット34から離脱させる(図29を参照)。

【0059】クランプフランジ126は施錠カバー50の切欠52と自動的に噛み合い、箱10を施錠カバー50から引き離す。この状態で、施錠カバー50はキーベース100にクランプされたままになる(図28を参照)。

【0060】施錠カバー50をキーベース100から取り外すには、クランプ部材の把手138に対して施錠カバー50と反対方向(図27の矢印の方向)に力を加えればよい。この力によりクランプフランジ126が回転して施錠カバー50の切欠52から離れ、施錠カバー50とキーベース100の分離が可能になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の盗難防止用箱および施錠カバーの斜視図である。

【図2】図1に示した箱の平面図である。

【図3】図2の3-3線による部分断面図である。

【図4】図2の4-4線による部分断面図である。

【図5】図4の5-5線による部分断面図である。

【図6】図2の6-6線による部分断面図である。

【図7】図2の7-7線による部分断面図である。

【図8】図2の8-8線による部分断面図である。

【図9】図1に示した施錠カバーの平面図である。

【図10】図9の10-10線による部分断面図である。

【図11】図9の11-11線による破断部分断面図である。

【図12】図9の12-12線による破断部分断面図である。

【図13】図9の13-13線による破断部分断面図である。

【図14】図9に示した施錠カバーの立面端面図である。

【図15】図9に示した施錠カバーの底面図である。

【図16】図1に示した箱および施錠カバーが係合された状態の部分断面端面図である。

【図17】キーベースに取り付けたキー挿入板を備える解錠装置およびこれと組み合せられるクランプ部材を示す斜視図である。

【図18】図17に示したキーベースの底面図である。

【図19】図17に示したキーベースの部分断面側面立面図である。

【図20】図17に示したキーベースの平面図である。

【図21】図17に示したキー挿入板の平面図である。

【図22】図17に示したキー挿入板の側面立面図である。

【図23】図17に示したキー挿入板の部分断面端面図である。

【図24】図17に示したクランプ部材の側面図である。

【図25】図24に示したクランプ部材の端面図である。

【図26】図17に示したクランプ部材の平面図である。

【図27】係合した施錠カバーおよび箱と、挿入途上にある解錠装置を示す部分断面図である。

【図28】係合した施錠カバーおよび箱と、解錠装置が挿入されてクランプ部材が施錠カバーと係合した状態を示す部分断面図である。

【図29】係合した施錠カバー、箱および解錠装置において、施錠カバーの突起を箱のスロットから離脱させるキーを示す部分断面図である。

【図30】図2に示した箱の底部と係合する鉤の側面図である。

【図31】図30に示した鉤の立面図である。

【図32】図30に示した鉤の他の例を示す立面図である。

【図33】図32に示した鉤の平面図である。

【図34】図32に示した鉤の立面図である。

【図35】図9に示した施錠カバーと係合する固定具の平面図である。

【図36】図35に示した固定具の立面図である。

【図37】図35に示した固定具の立面図である。

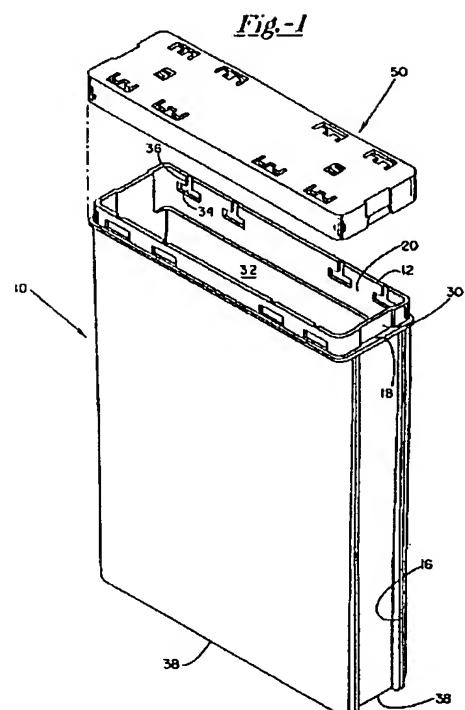
【符号の説明】

10…箱
12…箱側のリップ
18…鍔
32…開口
34…スロット
50…施錠カバー
56…鍵穴
58…突起
86…スカート

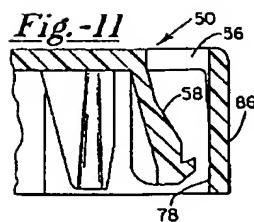
* 99…解錠装置
100…キーベース
104…キー
114…スロット
116…穴
118…スロット
121…台状側部
128…穴
136…クランプ部材

*10

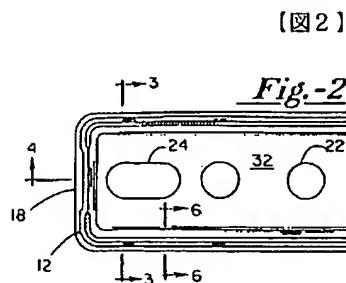
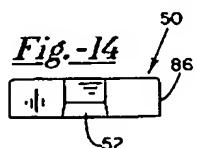
【図1】



【図11】

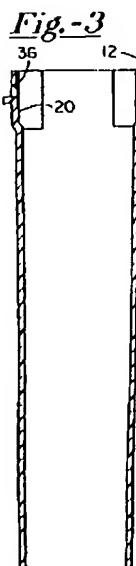


【図14】

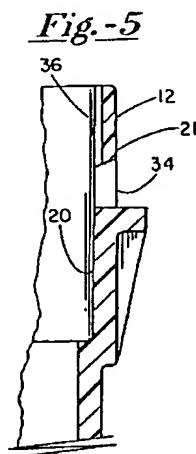


【図2】

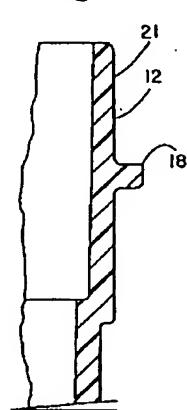
【図3】



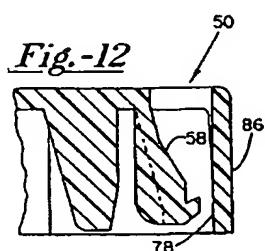
【図5】



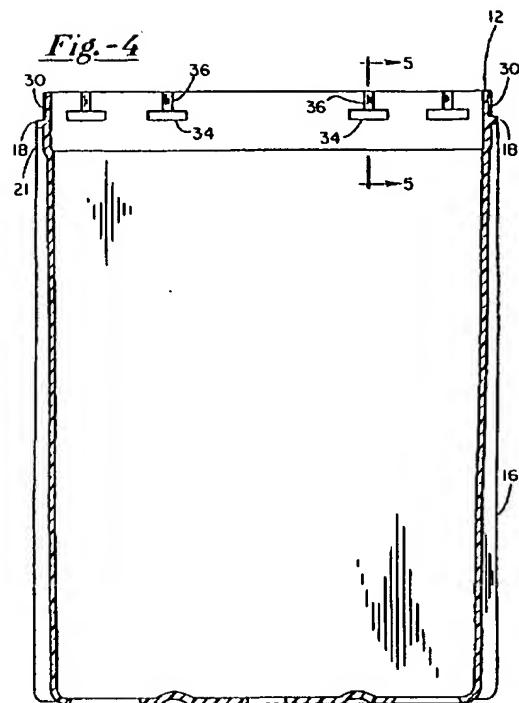
【図6】



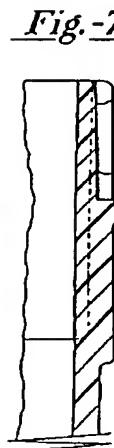
【図12】



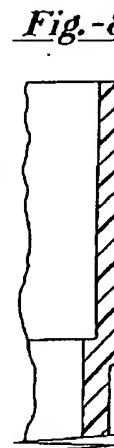
【図4】



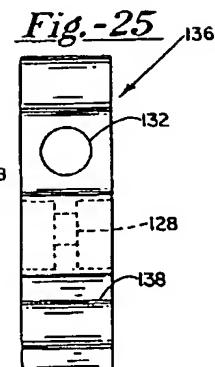
【図7】



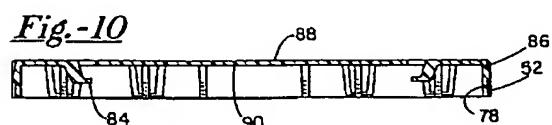
【図8】



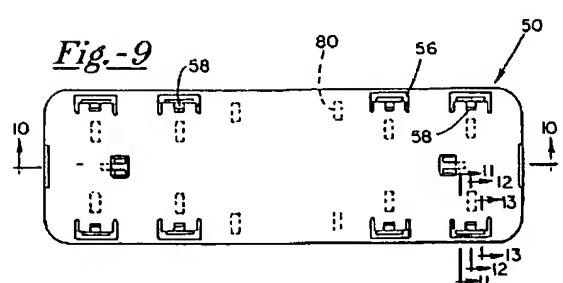
【図25】



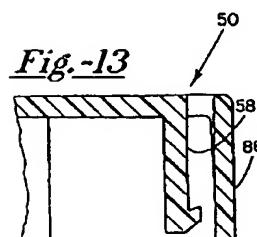
【図10】



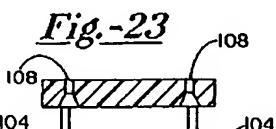
【図9】



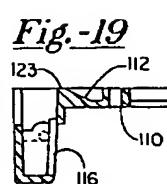
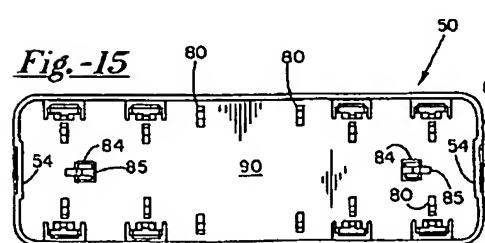
【図13】



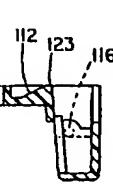
【図23】



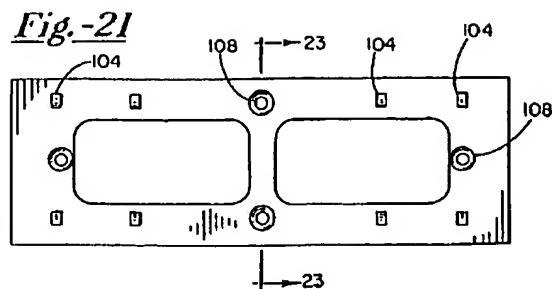
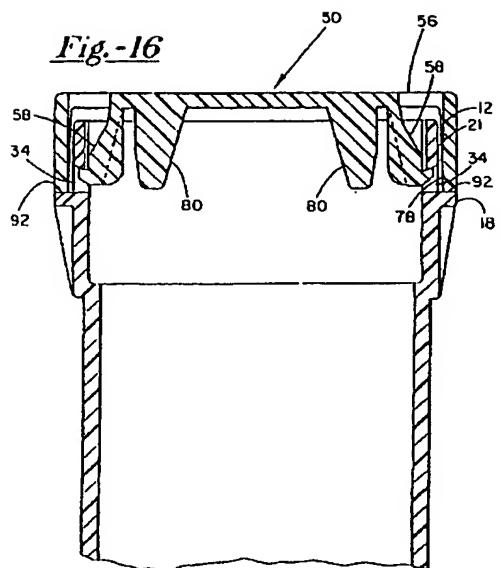
【図15】



【図19】



【図16】



【図17】

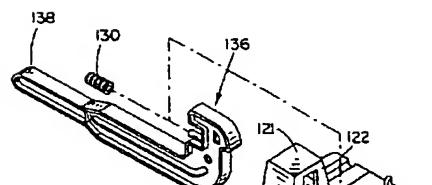
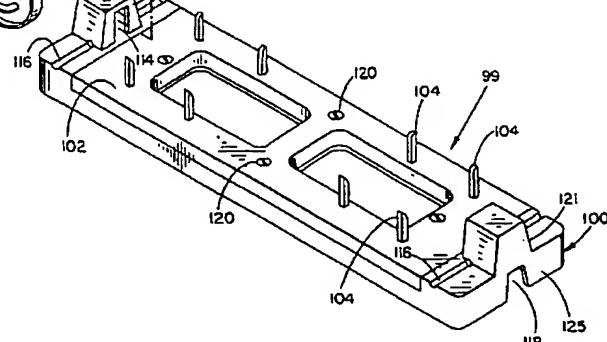
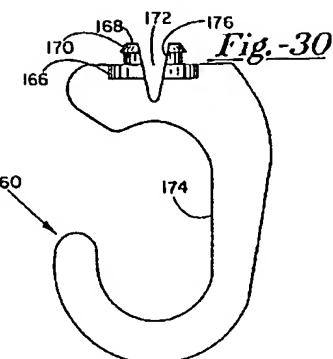


Fig. -17



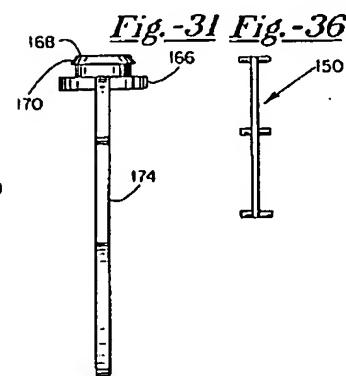
【図18】

【図30】



【図31】

【図36】



【図32】

【図33】

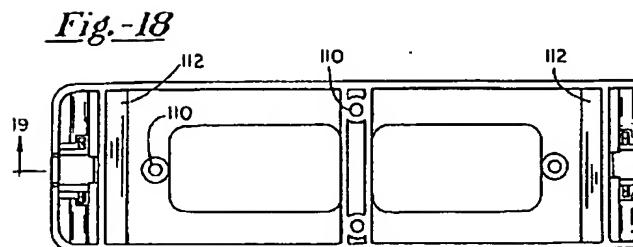


Fig. -18

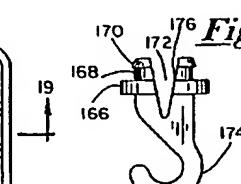
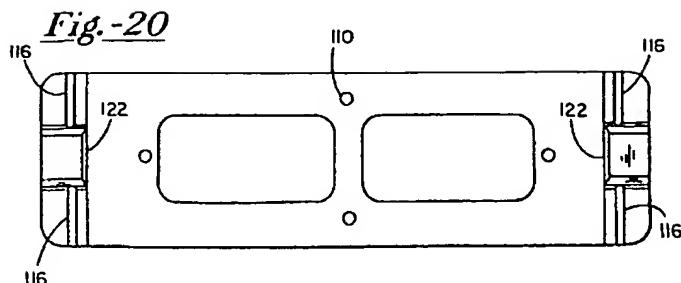


Fig. -32

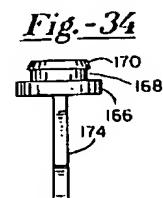


Fig. -33

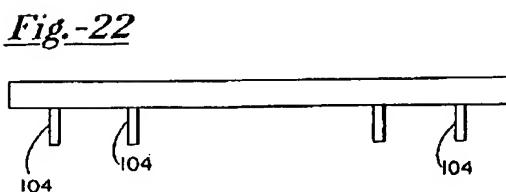
【図20】



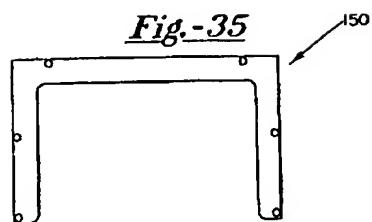
【図34】



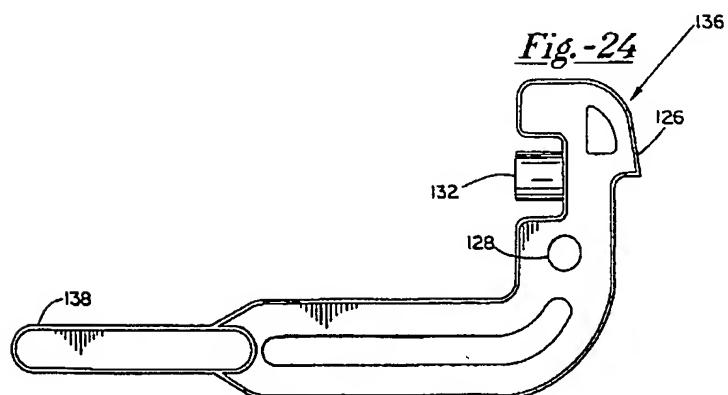
【図22】



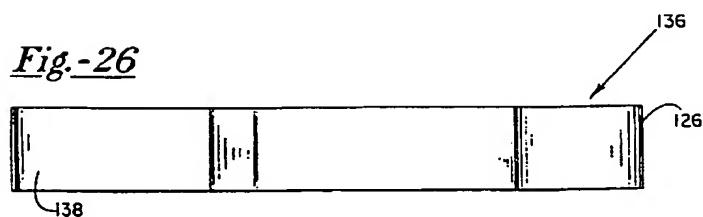
【図35】



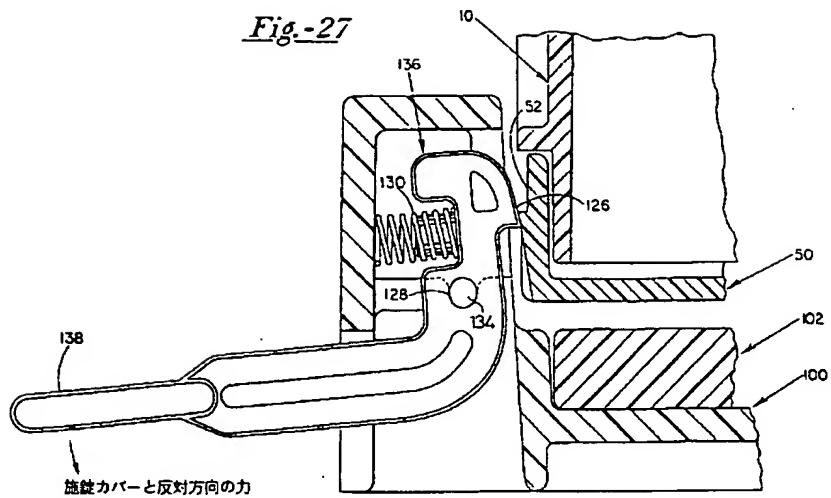
【図24】



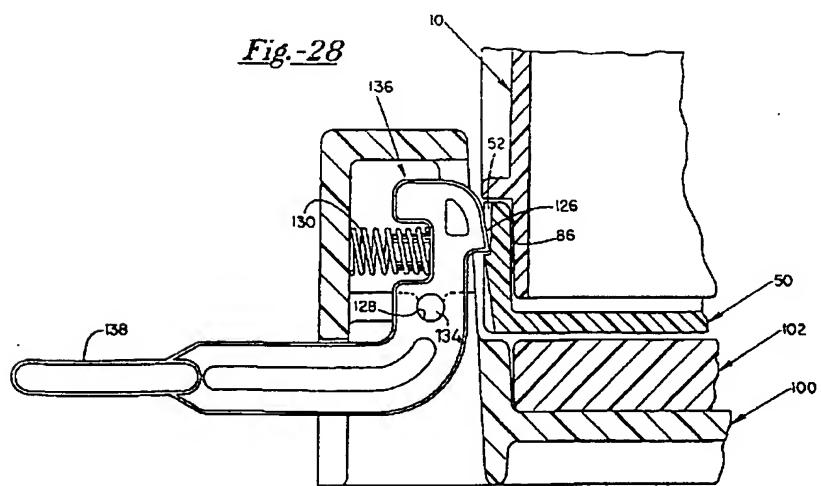
【図26】



【図27】



【図28】



【図29】

Fig.-29